

3 保護者等との連携による一貫した支援の充実 —個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成、活用の実践—

3 保護者等との連携による一貫した支援の充実 —個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成、活用の実践—

はじめに

本項では、推進校において実践している個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成及び活用に関する具体的な取組や工夫についての事例を掲載しました。

「校内研修プログラム」、「実践事例集」

「個別の指導計画」作成、活用の効果

- ☐ 指導や支援の見通しがもつことができます！
子どもの実態を的確に捉え、長期目標や短期目標、指導内容や方法等を明記することで、指導や支援の見通しをもつことができます。
- ☐ P D C Aの取組につながります！
評価をもとに、指導目標を見直したり、指導や支援の質を高めたりすることにつながります。
- ☐ 校内の共通理解ができます！
校内委員会で個別の指導計画を作成したり、見直したりすることで、校内の教職員の共通理解を図ることができます。

「個別の教育支援計画」作成、活用の効果

- ☐ 本人・保護者が一貫した支援の見通しをもつことができます！
関係機関や学校等が共に支援内容を考えることで、将来にわたっての支援の見通しをもつことができます。
- ☐ 保護者が支援者と共に子どもの成長を確かめることができます！
子どもの育ちを一步一步記録することで、支援者と共に子どもの成長を確かめることができます。
- ☐ 必要な支援や環境づくりの工夫等が引き継がれていきます！
必要な支援や環境づくりが、次の校種や進路先に引き継がれていくので、保護者が何度も同じ説明をしたり、本人が同じことで困難さを感じたりすることが軽減されます。

ポイント

- ・ 個別の指導計画を日々の指導に活用する。
- ・ 個別の教育支援計画を学校間で引き継ぐ。

特別な教育的支援を必要とする児童生徒等への指導の根拠となるのは、個別の指導計画です。推進校で取り組んでいるように、個別の指導計画と日々の授業場面における目標や手立てを関連付けることにより、効果的な指導を展開することが可能となります。

児童生徒等に関する必要な情報を関係者に引き継ぐのが個別の教育支援計画です。推進校で取り組んでいるように、保護者の願いやこれまで受けてきた支援、関係機関との連携等について学校間で引き継ぐことにより、就学や進学の際にも児童生徒等が円滑に学校生活を送ることにつながります。

個別の指導計画の作成、活用①

幼稚園

個別の指導計画を活用した取組

活用した資料

校内研修プログラムP 8

－個別の指導計画の作成－

○ 実践の概要

子どものよさ（○） 活動や生活上、困難なこと（△）		長期目標 （１年後を目標に）	
○いつも笑顔で挨拶する。 ○アイコンタクトができる。 △言葉が少ない（単語が多い）。 △排せつの自立ができていない。 △意に反することを求められると泣き叫ぶ。		・自分で行えることを増やす。 ・物の名称を知る。 ・自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりする。	
短期目標	様 子	指導や支援の 内容・方法	評 価
・絵カードを参考に持ち物を自分で片付けることができる。 ・自分でできることは自分でやろうとする。		・持ち物の片付ける場所を決める。 ・絵カードを見せ、行動の流れや行う場所を知らせる。 ・人とかかわる楽しさを感じられるよう、できたときは、ハイタッチをして喜びを共有する。	・絵カードを見ながら、持ち物を片付け、降園時の用意を一人で行うことができた。 ・先生や友達に対して、自らハイタッチを求めて、喜びを表現することができた。

本園では、このように、個別の指導計画を作成して、全教職員で指導や支援に取り組んでいます。

○ 実践の成果

目標の達成に向けて、具体的な指導や支援の内容・方法を個別の指導計画に位置付け、園として統一感のある指導や支援を行うことができました。

また、個別の指導計画の活用は、子どものよさを踏まえた指導を行うことにつながり、友達とのかかわりを楽しむことや、自己肯定感を育むことにつながっています。

個別の指導計画の作成、活用②

幼稚園

園内で共通理解を図る取組

活用した資料

校内研修プログラムP 8

－個別の指導計画の作成－

○ 実践の概要

子どものよさ（○） 活動や生活上、困難なこと（△）		長期目標 （1年後を目標に）	
○友達と一緒に遊ぶことが好きである。 ○環境を整えることで、見ることや聞くことに集中できる。 △場に慣れるまで歩き回り、目に入る物全てを触ってしまうことがある。 △気持ちが高揚していると自らの行動を止められなくなってしまうことがある。		・自分の気持ちをコントロールし、相手とのやりとりを楽しみながら遊ぶ。 ・場の状況に応じた対応を身に付ける。	
短期目標 （1～3ヶ月を目標に）	場 面	指導や支援内容・方法	評 価
・自分の出席ノートをカバンの中に片付けることができる。	・クラス活動	・個別に伝える。 ・言葉がけを少なくし、自分で気付けるようにする。	・周囲の子どもの姿を見ながら、持ち物を片付けることが出来るようになってきた。
・30分程度の間、椅子に座って活動に参加する。	・クラス活動	・戸外での活動と、室内での活動のバランスに配慮する。 ・できたことを褒める。	・好きな製作活動では座っていられる時間が長くなってきている。

本園では、校内研修プログラムの研修シートを活用して、特別な教育的支援を必要とする子どもの個別の指導計画を作成しました。

○ 実践の成果

具体的に目標や場面等を一覧にすることで、子どもへの指導目標や支援の手立てを園全体で共有することができました。

1～3か月で達成できる身近な内容を目標にすることにより、子どもはもとより、教職員や保護者も目標を意識して取り組むことができました。

個別の指導計画の作成、活用③

小学校

個別の指導計画の作成を通して 共通理解を図った取組

活用した資料

校内研修プログラムP20

－実態把握、支援方法の検討－

○ 実践の概要

項目	内容	該当する場合は○
長所	文字を丁寧に書き、本人も字形には自信を持っている。	
聞く	全体への指示や説明を聞いて、理解することが難しい。	○
話す	話しているうちに、内容がそれることが多い。	
読む	文字は読めても、単語や文として読むのが難しい。	○
書く	板書を書き写すのに、時間がかかることが多い。 細かい部分を書き間違えたりする。	
計算する	計算するのに時間がかかることが多い。 答えを得るのに、いくつか手続きを要する問題を解くのが難しい。	
推論する	図形を描くことが難しい。 文章題を解くことが難しい。	○
注意集中	気が散ることが多い。 最後まで課題に取り組むことが難しい。	○
多動性	じっと座っていられず、立ち歩くことが多い。	
衝動性	質問を最後まで聞かず、取り組むことが多い。	
人との関わり	相手の感情や立場を理解することが難しい。	
コミュニケーション	自分が分からない状況や困っていることを、相手に伝えることが難しい。	○
興味の範囲	興味・関心のある対象が限られ、特定のものへのこだわりが強い。	
特異な行動	身体の動きのぎこちなさや手指の不器用さが目立つ。	
その他、特記事項	昨年〇月に〇〇能力診断検査を行っている。 ⇒幼児音が残っている。また、聞き間違えや聞き返しも多い。	

本校では、チェックシートを用いて、全ての児童の実態把握を行っています。チェックシートの結果をもとに、特別な教育的支援を必要とする児童の個別の指導計画を作成し、研修を行いました。

また、教職員の児童に対する見取りを共通理解するため、定期的に特別支援教育に関する校内研修を実施しました。

○ 実践の成果

研修では、児童の長所を生かして支援するという考えに基づき、具体的な支援内容や方法などについて検討を行いました。

該当する項目に丸を付けたチェックシートを見ながら話し合ったことにより、児童の実態について、共通理解を図ることができました。

本校の所在する町では、町全体で個別の教育支援計画や個別の指導計画の様式の作成に取り組んでおり、学校間の引継ぎに活用するなど、一貫した支援の充実を図っています。

個別の指導計画の作成、活用④

小学校

個別の指導計画の作成を通して 共通理解を図った取組

活用した資料

校内研修プログラムP29
－個別の指導計画の活用－

○ 実践の概要



KJ法を用いた研修の様子

本校では、指導に当たる複数の教師が特別な教育的支援を必要とする児童の「よさ」や「課題」についてKJ法を用いて、個別の指導計画を作成しています。模造紙や付箋紙を用いることで、教職員の多様な意見を反映できるようにしています。

作成に当たっては、児童の抱える課題だけでなく、「よさ」に着目して共通理解を図りました。

研修では、個別の指導計画の作成の仕方を学ぶだけではなく、特別な教育的

支援を必要とする児童の発達の状態を確認し、日常生活の場で共通した指導を行うことも大切にしています。

○ 実践の成果

KJ法を用いて短時間で、個別の指導計画をもとに児童への言葉がけのポイントや対応についての研修を行いました。言葉がけについては、障がいの有無にかかわらず、全ての児童にとって有効な手立てとなることから、校内で共通理解を図り、取り組むことができました。

KJ法とは

カードをグループごとにまとめて、図解し、整理する方法です。共同で作業を行う際に用いられ、短い時間に多くの意見を集約できる特徴があることから、創造的な問題解決につながります。

個別の指導計画の作成、活用⑤

小学校

「個別の指導計画」を 作成、活用した取組

活用した資料

校内研修プログラムP29
— 個別の指導計画の活用 —

○ 実践の概要

本校では、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童を対象に「個別の指導計画」を作成しています。

〇〇小学校 「個別の指導計画」		担任：〇〇 〇〇
学年・組	〇年	児童氏名 〇〇 〇〇
1. 実態・考察・課題 - 活動の流れを話して伝えようと、理解できなくなることが多いが、実物や写真、文字で伝えようとスムーズに活動できる。 - 困ったことがあったときに、困っていることを相手に伝えることや人に支援を依頼することが難しい。 - 物事に集中し続けることや、感情をコントロールすることができなくなり、落ち着きをなくしてしまうことがある。 - 興味がなくなると、途中で活動を止めてしまうことがある。 - 一人遊びが多いが、大人の仲介があると、友達と遊ぶことができる。		
2. 長期指導目標 - 見通しをもち、自分から活動に取り組む事ができる。 - 友達に自分から話しかけたり、一緒に遊んだりすることができる。		
3. 短期指導目標 - 学級担任の支援を受けながら、朝と帰りの身支度を、自分で完了できる。 - 遊びや給食の場面で、教師に依頼する言葉を3つ増やすことができる。		
4. 教育活動全般における配慮事項 - 自分でできたことは褒め、できないことであっても、手伝い、認めながら、できるだけ本人の意思を尊重して、自己肯定感を高めるような支援をする。 1日の流れや毎時間の授業の進行について、カード等を活用しながら、見通しをもたせるような支援をする。 - 落ち着いた雰囲気の中で、本人が学習しやすい環境を可能な限り整えながら、学校生活を送ることができるよう配慮する。		

障がい特性を踏まえ、多角的な視点で見た児童の実態と課題を記述しています。

長期(年間)目標と、短期(学期)目標を定め、指導内容・方法を記載しています。

配慮を要する事項等を、分かりやすい表現で記述しています。

○ 実践の成果

個別の指導計画の作成・活用は、特別な教育的支援を必要とする児童の実態や指導目標、手立て等を教職員全体で共有することにつながりました。その結果、特別支援教育にかかわる校内体制が整いました。

個別の指導計画の作成、活用⑥

中学校

個別の指導計画の作成を通して 共通理解を図った取組

活用した資料

校内研修プログラムP34

－個別の指導計画の作成－

○ 実践の概要

生徒のよさ（○） 学習上又は生活上の困難（△）		長期目標 （１年後を目標に）	
○明るく、人懐っこく、素直な面がある。 ○物おじせず、堂々と話し、行動することができる。 ○優しく思いやりがあり、周囲から好かれている。 △話を集中して聞くことが難しいことがある。 △自分のペースで話してしまうことがある。 △多動傾向があり、落ち着きがなくなることがある。 △ノートをとることが苦手で、時間がかかることがある。		・係活動や行事、部活動で役割を果たし、自信をもつことができる。 ・人とのかかわり方に関する基本的なマナーを身に付けることができる。	
短期目標 （１～３か月後を目標に）	場 面	指導や支援の内容、方法	評 価 （中間・年度末）
・大人に自分から挨拶ができるようになる。	・登校時 ・下校時	・挨拶の仕方を練習し、校長先生などにより点を褒めてもらう。	・大人の人への挨拶が上手になり、来校者に自分から挨拶をするようになった。

本校では、校内研修において、全教職員で特別な教育的支援を必要とする生徒の個別の指導計画の作成に取り組み、本生徒への指導や支援の見通しをもてるようにしました。

校内研修では、各教科の担当者が具体的な指導場面の様子を発表し、指導や支援の内容、方法について意見交流しました。

また、生徒への指導や支援の方法だけでなく、保護者との連携の在り方についても検討し、家庭と連携した取組を進めました。生徒の実態によって、より詳細な実態把握を行う必要がある場合には、本人・保護者の同意を得た上で心理検査等を実施し、個別の指導計画を作成する際の参考にしています。

○ 実践の成果

個別の指導計画の作成を通して、生徒の実態や支援の方法について考えることができました。

担任だけでなく教科担当者など、全教職員が個別の指導計画の作成にかかわったことにより、特別な教育的支援を必要とする生徒に対し、同じ視点で指導や支援をすることができるようになりました。

個別の指導計画の作成、活用⑦

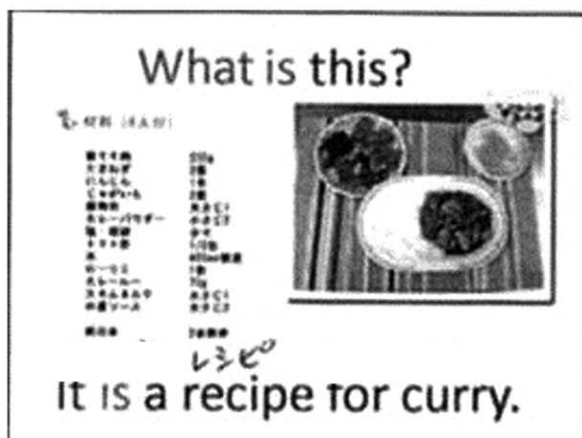
中学校

単語に片仮名を表記して 支援した取組

活用した資料

校内研修プログラムP42
—個別の指導計画の活用—
実践事例集P24、25
—中学校～授業づくり—

○ 実践の概要



英文に片仮名を併記した教材

本校では、特別な教育的支援を必要とする生徒の個別の指導計画の目標「教科書の英文のうち短いフレーズを覚える」を達成するために、自信をもって発音することが難しい単語に片仮名を併記し、英文が読めるようにすることに取り組んでいます。読めるようになった英文は片仮名の部分を見ないで読めるように段階的な指導を進めています。

指導に当たっては、1か月から2か月の期間で個別の指導計画を見直し、生徒の実態に応じた段階的な支援を行っており、読めるようになった単語や英文には片仮名を付けず、読める単語を増やしています。

その他の支援として、ICTを活用して、写真と文字で示したり、学習のポイントを絞ったワークシートを活用したりし、目標が達成されるよう指導や支援を行っています。

○ 実践の成果

当該生徒は、分からない単語に片仮名を併記すると読めるようになってきました。今後もスモールステップによる指導を行い、読める単語が増えるよう学習プリントを作成して取り組む予定です。

個別の指導計画とは

特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒一人一人について、指導の目標や内容、配慮事項などを示した計画です。教職員の共通理解のもと、きめ細かな指導を行うことを目的に作成する計画です。

個別の指導計画の作成、活用⑧

中学校

ブレインストーミングを行い 個別の指導計画を作成した取組

活用した資料

校内研修プログラムP21
－個別の指導計画の作成－

○ 実践の概要

個別の指導計画		○年○組 氏名 (○○ ○○)	
○生徒のよさ △学習上又は生活上の困難	長期目標		
○ 面倒見がよい。	・自己肯定感が高まり、様々な活動に主体的に参加することができる。 ・分からない問題があったとき、手を挙げて質問し、理解することができる。		
○ ノートやプリントを丁寧に書くことができる。			
△ 問題文を読んで理解することが難しい。			
△ 理解しているように見えても、学んだことが身に付いていない場合がある。			

ブレインストーミングで作成した「個別の指導計画」

よりよい授業をつくるためのアンケート(国語)				
普段の授業を振り返り、当てはまるものに○を付けてください。 (4:そう思う、3:まあ思う、2:あまり思わない、1:思わない)				
1	先生の指示がよく分かる。 (何をしたらよいかが分かる)	4	3	2 1
2	先生の質問がよく分かる。 (何を聞かれているのかが分かる)	4	3	2 1
3	先生の説明がよく分かる。 (なぜ、そうなるのかが分かる)	4	3	2 1
4	先生が書く黒板は分かりやすくまとめられている。	4	3	2 1

よりよい授業をつくるためのアンケート

本校では、「指導方針決定会議」を実施し、ブレインストーミングにより、「生徒のよさ」や「学習上又は生活上の困難」に基づいた長期目標を検討しました。

また、生徒によりよい授業アンケートを全教科で実施し、指示・発問・説明の分かりやすさや視覚的な支援の工夫の状況を検証しました。

○ 実践の成果

複数の教師により目標や手立ての検討を行ったことにより、生徒の実態について共通理解を図ることができました。

また、「実態把握メモ」の内容や、よりよい授業をつくるためのアンケートの結果を踏まえ、個別の指導計画の改善・充実を図ることができました。

ブレインストーミングとは

ある問題やテーマに対して、参加者が自由に意見を述べることで、多彩なアイデアを得る会議の方法です。

個別の指導計画の作成、活用⑨

高等学校

校内委員会が中心となり 個別の指導計画を作成した取組

活用した資料

校内研修プログラムP47
－個別の指導計画の作成－

○ 実践の概要

進路目標：調理師資格を得られる専門学校への進学

生徒のよさ（○） 活動や生活上、困難なこと（△）		長期目標 （１年後を目標に）
○ 1対1での会話は複雑な内容でも理解し、一度行った作業であれば、集中して取り組むことができる。 △ 鞆の中が乱雑で、忘れ物が多く、学校の準備を母親が行っている場合がある。 △ 授業や集会の際に、その場で、じっとしていることが難しい。 △ 思い通りにならないときに、大声を出す、寝そべる、学校を飛び出す等の行動をとってしまう。		① 持ち物の管理が自分でできる。 ② 感情の高まりをコントロールしたり、適切な方法で表現したりすることを身に付ける。
短期目標	場面	指導や支援内容・評価方法
① 大人と一緒に持ち物を確認することができる。 ② 授業に集中できるようにする。 ③ イライラしたときに自分から切り替える行動がとれるようになる。	① 登校前 下校前 ② 授業中 ③ 授業中、学校生活	① 保護者が一緒に確認し、完了したら褒めるようにする。 ② 前向きな言葉がけを行うとともに、集中できた時間をメモして強化する。 ③ 面談を通して、高校卒業後のなりたい自分について話し合い、日常の様子を褒めるようにする。また、切り替えるための方法を用意し、練習する。

○ 実践の成果

将来の目標に基づいた個別の指導計画を作成したことにより、キャリア教育の視点から、社会的自立に向けた目標を明確にし、「実際の生活」に結び付いた効果的な指導を行うことができました。

個別の指導計画の作成、活用⑩

高等学校

校内研修日を利用して 個別の指導計画を作成した取組

活用した資料

校内研修プログラムP47
— 個別の指導計画の作成 —

○ 実践の概要

生徒のよさ（○） 活動や生活上、困難なこと（△）		長期目標 （１年後を目標に）
○ 一人で継続して取り組むことができる。 ○ 絵やイラストを描くことが得意である。 △ 興味の少ないことには集中できないことがある。		・ 本人が長所と短所を理解し、得意なことを生かし、苦手なことに挑戦しようとするができる。
短期目標	指導や支援内容、方法	評価
・ 得意な絵やイラストを描く力を発揮できる場をつくる。	・ 学校祭で芸術文化委員の装飾を担当し、活躍できるようにサポートを行う。	・ 装飾をたくさんの人に褒めてもらい、自信をもつことができた。 ・ スポーツ祭の準備委員に立候補していた。

校内研修会において、教育局の特別支援教育スーパーバイザーを講師として、特別な教育的支援を必要とする生徒への対応について講義を受けた後、個別の指導計画を作成する演習を行いました。

その後、特別支援教育パートナー・ティーチャーの助言を受けながら、実際に支援が必要な生徒の実態を教職員で交流し合い、個別の指導計画を作成しました。



個別の指導計画の作成

○ 実践の成果

校内研修を通して、特別支援教育への理解を深めた上で、個別の指導計画の作成・活用を進めましたことにより、効果が高まりました。

また、こうした取組を通じて、ホームルームや授業等での支援の在り方について、検討することができました。

個別の教育支援計画の作成、活用①

小学校

個別の教育支援計画を活用した 児童生徒の実態把握

活用した資料

校内研修プログラムP22

— 個別の教育支援計画の作成 —

○ 実践の概要

Aさんの実態把握（個別の指導計画A）		
氏名	A	
診断名	心疾患 広汎性発達障害	
〇〇センター 時代の実態と 対応	・友達と上手くかかわれないことがあるが、教師が後ろから言葉を引き出すような支援をすると、上手くいくことがあった。 ・会話だけでは理解が不十分なため、写真などの視覚情報と併せて伝えると効果的であった。 ・今日の予定や一日の流れを書いて示すと、見通しをもつことができた。 ・取り組んでいることを言葉で伝え、言葉と行動を結び付けるようにしたところ、理解が深まった。	
生育歴と保護 者の願いや悩 み	・2歳半までは、2語程度の会話であった。その後、広汎性発達障害の診断を受け、〇〇学級に通園。3歳になる前に少しずつ会話ができるようになってきた。 ・年長の頃、〇〇で検査し、記憶、認知、社会性で困難が見られた。 ※通常の学級で学習についていけなくなった場合、どのような進路となるのか不安である。	
本人のよさと 困難さの把握	学びの場面 （よさ）	・何事にも意欲的に挑戦しようとする。 ・分からないことがあると、教師に尋ねることができる。
	学びの場面 （困難さ）	・話を聞くことや作業することに集中できる時間が短い。 ・教科書の中から言葉を探すことが難しい。 ・自分に言われていることなのか、他の人に言われていることなのか、聞き分けることが難しいことがある。

本校では、児童の実態把握を適切に行うため、保護者の理解を得た上で、個別の教育支援計画を活用した地域の幼児センターとの連携を行っています。連携を通して、幼児期の様子や対応を参考に、児童に最適な支援が行えるよう実態把握に努めています。

その際、定期的に児童の成長と課題を把握し、指導の改善に役立てることができるよう個別の教育支援計画を活用しています。

○ 実践の成果

「名前を呼んでから、何をするのか具体的に伝える」など、支援の方策を明確にしたことで、「集中できる時間が長くなる」などの成果が見られました。

年度末に保護者と児童の成長を共有することにより、次の目標や支援の方策を決定し、進級後も一貫した指導や支援を継続することができました。

個別の教育支援計画とは

学校生活だけでなく家庭生活や地域での生活も含め、長期的な視点に立って幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を行うことが重要であり、例えば、家庭や医療機関、福祉施設などの関係機関と連携について様々な側面からの取組を示した計画です。

個別の教育支援計画の作成、活用②

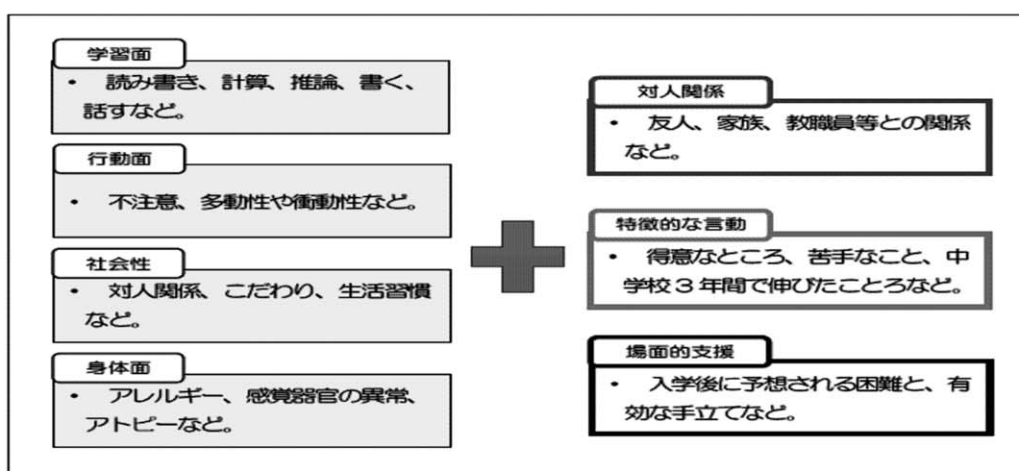
高等学校

個別の教育支援計画を活用して 引継ぎを行った取組

活用した資料

校内研修プログラム P56
— 個別の教育支援計画の活用 —

○ 実践の概要



引継ぎシートに記入する要素（例）

本校では、保護者の理解を得た上で、個別の教育支援計画の内容と関連付けた引継ぎシートを作成しています。合格発表後に高等学校のコーディネーターが中学校を訪問し、入学当初より支援や配慮が必要と思われる場面への対応について引継ぎを行っています。引継ぎの内容は、学習面や行動面、社会性、身体面に加え、対人関係、特徴的な言動、支援の場面とし、入学に備えた環境整備の充実を図りました。

また、引継ぎシートを全教職員で内容を共有した上で、校内委員会を中心に入学後の支援の方策を検討しました。

○ 実践の成果

入学式、対面式、身体測定、宿泊研修等の行事や休み時間の過ごし方、授業中の様子、友達関係等の様子など、入学直後に困難を示すことが予想される場面について保護者からも情報収集をした上で、必要な環境整備の充実と必要な支援を行ったことは、学校生活のスムーズな移行につながりました。

個別の教育支援計画の作成、活用③

高等学校

個別の教育支援計画を活用し、 中学校と連携した取組

活用した資料

校内研修プログラムP48
－個別の教育支援計画の作成－
校内研修プログラムP56
－個別の教育支援計画の活用－

○ 実践の概要

本校では、高校生活の円滑なスタートに向け、保護者の理解を得た上で、入学時に中学校と連携を図り、特別な教育的支援を必要とする生徒について、個別の教育支援計画を用いた引継ぎを行っています。

○ 目標と具体方策

- 1 全教職員が生徒の障がいや教育活動における具体的な支援の方法について理解を深め、個に応じた適切な教育活動の推進を図る。
→中学校や特別支援学校の教職員からの助言を全教職員に周知し、共通理解を図り、一貫性のある指導に努める。
- 2 特別な教育的支援を必要とする生徒の把握に努め、状況に応じて教員間での打合せを行い、生徒の支援の在り方について検討する。
→担任・学年・委員会の連携の流れを明確にして、支援体制を確立する。
- 3 個別の指導計画と個別の教育支援計画を作成し、活用を進める。
→中学校からの引継ぎを含め、個別のファイルを作成して全教職員が活用できるようにするとともに、随時更新し、最新の情報が共有されるようにする。
- 4 長期的に特別な教育的支援を必要とする生徒への対応方法を協議し、専門機関との連携を図るための窓口となる。
→本人及び保護者の意向をもとに、積極的に相談支援機関等を利用する。

○ 実践の成果

個別の教育支援計画を活用し、入学時に特別な教育的支援を必要とする生徒の実態やこれまでの支援の経過等について、保護者や中学校の学級担任と引継ぎを行うことができました。その結果、入学当初の早い段階で特別な教育的支援を必要とする生徒への対応について校内で共通理解を図るとともに、一貫した指導や支援につなげることができました。

3 個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成、活用

【活用シート】 個別の指導計画・個別の教育支援計画を活用しよう！

項 目	現 状	改善点
指導や支援の充実を図るため、個別の指導計画を年間指導計画や学習指導案の作成に活用している		
校内での指導や支援の内容を検討するため、校内委員会やケース会議（支援会議）において活用している		
関係機関と連携した支援の充実を図るため、支援会議などにおいて必要な情報の共有に活用している		
支援内容の改善を図るため、支援の結果を記録し、評価に活用している		
一貫した指導や支援の充実を図るため、就学時や学校間、卒業後の就労先への引継ぎに活用している		
メモ		

■平成28年度「発達障がい支援成果普及事業」推進校

管内	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
空知	美唄市立栄幼稚園	美唄市立中央小学校	美唄市立美唄中学校	美唄尚栄高等学校
石狩		千歳市立泉沢小学校	千歳市立向陽台中学校	千歳高等学校(定時制)
後志	共和町立はまなす幼児センター	共和町立北辰小学校	共和町立共和中学校	共和高等学校
渡島	森町立さわら幼稚園	森町立さわら小学校	森町立砂原中学校	森高等学校
檜山		江差町立江差小学校	江差町立江差中学校	檜山北高等学校
胆振	学校法人リズム学園はやきた子ども園	安平町立早来小学校	安平町立早来中学校	追分高等学校
日高		平取町立平取小学校	平取町立平取中学校	平取高等学校
オホーツク		湧別町立上湧別小学校	湧別町立湧別中学校	湧別高等学校
上川	愛別町立愛別幼稚園	上川町立上川小学校	剣淵町立剣淵中学校	幌加内高等学校
留萌		留萌市立東光小学校	増毛町立増毛中学校	遠別農業高等学校
宗谷		稚内市立稚内港小学校	稚内市立稚内南中学校	豊富高等学校
十勝	清水町立清水幼稚園	芽室町立芽室西小学校	更別村立更別中央中学校	更別農業高等学校
釧路	標茶町立標茶幼稚園	標茶町立標茶小学校	標茶町立標茶中学校	標茶高等学校
根室	中標津町立計根別幼稚園	根室市立北斗小学校	根室市立啓雲中学校	根室西高等学校

■上記「推進校」以外で情報提供いただいた学校

帯広市立稲田小学校 清水町立清水中学校

■平成26・27年度「発達障がい支援モデル事業（文部科学省委託事業「発達障害理解推進拠点事業）」
モデル校

森町立さわら幼稚園 森町立さわら小学校 森町立砂原中学校
美唄市立栄幼稚園 美唄市立中央小学校 美唄市立美唄中学校
湧別町立上湧別小学校 湧別町立湧別中学校

■平成27年度「発達障がい支援モデル事業（文部科学省委託事業「発達障害理解推進拠点事業）」
協力校

北広島市立北の台小学校 共和町立はまなす幼児センター
室蘭市立地球岬小学校 安平町立はやきた子ども園
安平町立追分幼稚園 安平町立安平小学校
安平町立追分小学校 安平町立早来小学校
安平町立遠浅小学校 安平町立追分中学校
安平町立早来中学校 北海道追分高等学校
北海道静内農業高等学校 北海道檜山北高等学校
占冠村立占冠中学校 北海道留萌千望高等学校
稚内市立稚内港小学校 北海道更別農業高等学校
釧路町立富原小学校 別海町立別海中央小学校

